

第10章 気候変動への適応(地域適応計画)

二次元
コード

1. 気候変動適応とは

※詳細な内容はこちら

近年、気温の上昇や大雨の頻度の増加、熱中症リスクの増加など、気候変動による影響が世界各地でみられています。気候変動適応とは、現在生じているまたは将来予測される、こうした気候変動の影響による被害を回避・軽減し、適応していくことです。

【気候変動影響の評価について】

- ・国は、気候変動適応法に基づき、おおむね5年ごとに、気候変動影響の総合的な評価についての報告書を作成・公表することとされています。
- ・国が令和8年度内に改定を予定している気候変動適応計画では、その骨子において、「第3次気候変動影響評価報告書(2026年2月 環境省)」を踏まえ、特に優先的に対応すべきとされた6つの影響に対して重点的に取り組むことが記載されています。
- ・北九州市においても、国の動向も踏まえながら、以下の6分野ごとにさまざまな気候変動適応策に取り組みます。

①農林水産業



②水環境・水資源



③自然生態系



④自然災害・沿岸域



⑤健康



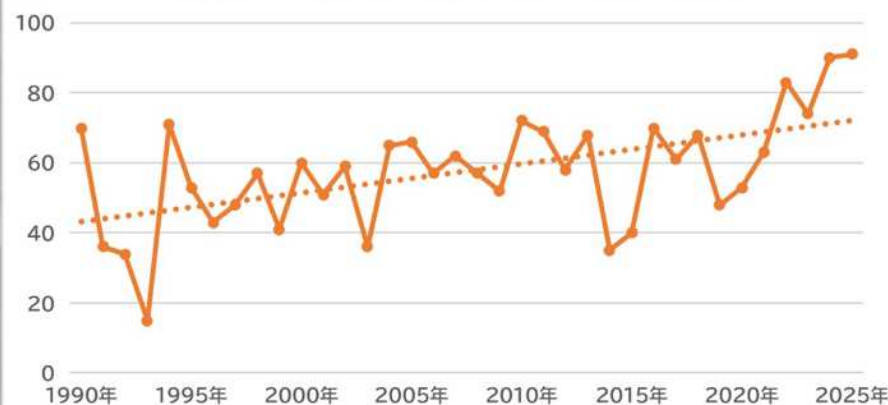
⑥産業・経済活動、国民生活・都市生活



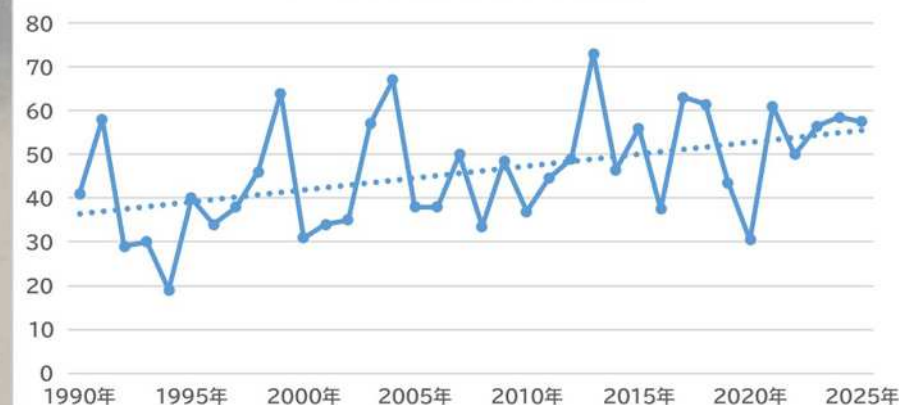
【参考】北九州市における気候変動の影響

北九州市においても、過去に比べて、気温の上昇や降水量の増加などの影響が確認されています。具体的には、近年、**真夏日・猛暑日の発生日数**や**1時間降水量※の最大値**が増加傾向にあります。
※1時間に50mm以上80mm未満の雨を「非常に激しい雨」といいます

真夏日・猛暑日の日数(日最高気温30度以上)



1時間降水量の最大値(mm)



出典：気象庁データ（観測地点：八幡）より、北九州市作成

第10章 気候変動への適応(地域適応計画)

二次元
コード

2. 主な取組内容

※詳細な内容はこちら

「第3次気候変動影響評価報告書」(2026年2月 環境省)における気候変動の影響を確認し、本市の地域特性を踏まえた、分野ごとの先手先手の取組の方向性と主な取組を示します。

(1) 農業・林業・水産業

気候変動影響の例	取組の方向性	主な施策
● コメの収穫量・品質の低下 ● 果樹の果皮の着色不良・浮皮 ● 家畜の成長量・繁殖率等の低下 ● 害虫の分布域の拡大 ● スギ人工林の衰退(水ストレス) ● 回遊性魚類の分布域の変化 ● 藻場の減少、生息場として藻場依存性の強い種の漁獲量減少	農産物の安定した供給のため、地球温暖化に対応した栽培技術等の情報提供や農業生産基盤の整備に対する支援等を行うとともに、森林や竹林の整備を行います。また、水質や赤潮等を監視し漁業被害の防止を図ります。	高温耐性品種や新たな病害虫対策等に関する周知啓発 環境に配慮した農業者支援、熱中症予防啓発 間伐の実施による森林の健全な育成 放置竹林の拡大防止、竹循環システムの構築 水産環境の整備 赤潮等の監視

(2) 水環境・水資源

気候変動影響の例	取組の方向性	主な施策
● 湖沼や河川の水温上昇、水質の悪化【将来】 ● 海域の水温上昇、貧酸素水塊 ● 無降雨日数の増加による渇水の増加【将来】 ● 渇水時における地下水揚水量の増加による地盤沈下の進行	公共用水域の環境の維持や良質な水道水の安定供給のため、水質モニタリングの継続や水道水源の水質保全を進めるとともに、下水処理水の再利用など水利用の合理化などを行います。	公共用水域における水質等の調査 有機汚濁の進行した水源に対応した浄水プロセス及び貯水池の水質改善 下水道の普及促進 下水処理水の再利用 水源地交流事業

(3) 自然生態系

気候変動影響の例	取組の方向性	主な施策
● 植生・動物の分布適域の変化・縮小【将来】 ● 海水温上昇による植食性魚類の北上、藻場生態系の減少 ● 気候変動による外来種の定着リスクの増加、分布拡大【将来】	「北九州市生物多様性戦略」や「北九州市緑の基本計画」等と整合を図りながら、豊かな自然の恵みを活用し、自然と共生するまちの実現に向け、モニタリングにより動植物等の生息状況を把握し、希少種保全等を行います。	自然環境に関する市民啓発 生物多様性に関する調査の実施 法律等による緑地の保全活動 市街地における緑地の保全・活用 ほたるの愛護活動支援